

でんでんくん



でんでんくん



きめたくん



つちこちゃん

No.4 平成29年10月4日

発行：秋田県立聴覚支援学校内 きこえとことば支援センター

難聴児童生徒交流会

7月29日に聴覚支援学校で行われた難聴児童生徒交流会に、県内各地からのご参加ありがとうございました。暑い中ではありましたが、県内小学校から10名の子どもたちとその保護者、学級担任の先生方にお集まりいただき本校児童と一緒に交流しました。今回は、児童と保護者が分かれて活動を行いました。

【子どもたちの交流会】

交流会では、初めに3グループに分かれてクイズを出し合うゲームを行いました。その後は、自由遊びの時間でしたが、それぞれ囲碁や将棋、オセロ、竹つなぎリレー、ジェンガなどで楽しむうちに、だんだん打ち解けていく様子が見られました。同じ障害を持つ仲間とつながりを持つ大事な時間となったと思います。これを機に、手紙のやりとりをするなど、関わりが継続していくといいなと感じました。

【保護者の会】

保護者の会の前半は、難聴擬似体験をしました。ヘッドフォンをして周囲の音（情報）を遮断することでどんな気持ちになるのか、具体的な生活場面を想定した体験を通して、あらためて保護者の皆さんにも感じてもらいました。また、県内の小学校・中学校などから依頼を受けて行っている難聴理解学習についても話題にしました。後半は、本校の大塚由美子教諭が講演を行いました。進路のことが中心のお話でしたが、自身の体験をもとに学習のことや学校での人間関係についてもお話されました。講演の後は、情報交換会を行いました。言葉の指導について、ご家庭で悩まれていることや、実践されていることなどを語り合い、有意義な時間となりました。

保護者の会の様子



交流会の様子



難聴理解学習から

今年度もたくさんの学校から依頼をいただき難聴理解学習を行ってきました。数年前から難聴の児童生徒がいない学校からの依頼も増えてきています。障害理解学習として計画されている学校も多いようです。今回は、9月初旬に難聴理解学習を実施した大館市の小学校の取組をご紹介します。

休み時間に鬼ごっこをしていて途中でルールが変わることを想定した擬似体験。数名の児童がヘッドフォンをして音を遮断しています。



- 〈6月〉・難聴学級担任から難聴理解学習の依頼を受けて相談開始
 - ・難聴児と周囲の友だちとの関係など学校での様子を伺いながら理解学習のねらいを確認
 - ・事前の職員研修と難聴理解学習の実施時期を決定
- 〈8月〉・全職員対象に職員研修を実施
 - ・難聴理解学習内容、進め方について相談
 - ・保護者の意向を聞き取り
- 〈9月〉・難聴学級担任が中心となり、対象となる学年部職員と相談した上で理解学習の詳細を計画



学習を振り返り、まとめたことを発表して、学年全員で友だちの考えを共有しています。

実施する3ヶ月前から依頼を受けたことで、その後の相談や職員研修の実施など余裕をもって進めることができました。また、保護者の意向を聞き取り、学習内容にもしっかりと反映された内容となっていました。ヘッドフォンを使った難聴擬似体験では、普段の学校生活の中で児童に考えさせたい具体的な場面が設定されていたことで、学習したことをすぐに日常生活に生かすことができる活動でした。難聴学級の先生が窓口となり、学年部を中心に全校職員で難聴理解を進めようという意欲が感じられた取組でした。

情報保障について

軽度難聴であっても、人工内耳を装着しているからといっても、健聴者と同じように聞こえているわけではありません。聴覚障害の最も本質的な障害は、情報とコミュニケーションの障害です。そのため、情報保障が大切になります。本人が授業者や友達を注目して情報を得ようとする、また、授業者や友達も難聴児に伝わるように話そうとすることが前提です。各校で工夫して取り組まれていると思います。ここでは、秋田市立岩見三内小学校の難聴学級の取組の例をご紹介します。

(第45回秋田県聴覚・言語障がい教育研究大会 難聴学級部会 の話題提供より)

【基本的な考え方】 情報保障の目的は、よりよい発達を促すための条件を整えること。

☆ 情報保障 = 通訳+辞書+α

※その子どもの課題を解決するためのもの
教科学習の補完・生徒指導・SST・相談・連絡 など

☆ 情報保障 ≠ 通訳

一人一人の子どもに合わせた工夫が大切です。

【日頃、留意していること】

- ①その時間のめあてを確認する。
 - ・・・ 何ができると合格か。 → 本児にどこまで求めるか。
- ②友達の発言のよさに気付く事ができるようにする。
 - ・・・ 比較・グループ化・解説 → 付箋紙でノートテイク・座席表の活用
- ③子どもの理解度を把握する。
 - ・・・ 重要語句をピックアップする。 → そのとき・その場で・難儀せず
- ④難解語句は予習・復習をする。
 - ・・・ 必要に応じて扱いに軽重をつける。 → 月曜の個別で確認
- ⑤本人に決定させる。
 - ・・・ 支援の方法を自分で考える。 → 手話・ノートテイク・PC活用など

意図的にキーワードを穴埋めにして意識させているそうです。

難聴に関すること、補聴器に関すること、毎日の授業についてお気軽にご相談ください。

きこえとことば支援センター（秋田県立聴覚支援学校内）
 〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3-127
 TEL：018-889-8572 FAX：018-889-8575

